

医学を通じて国を守る自衛官を目指す



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）静岡募
集案内所は、7月19日（木）に防衛医科大学校（埼玉県所沢市）
で行われた「医学科学生オープンキャンパス」に、高校生や保護
者等17人を引率した。

真新しい校舎や学生が生活を送る学生舎のほか、図書館には医
学に関する多くの書籍が納められ、医学の勉学に集中できる環境
が整っている防衛医科大学校。当日は、模擬講義や入試個別相談
などが行われ、参加者はそれぞれの会場で時間の限り防衛医科大
学校を体感していた。

特に模擬講義では、同校のみが唯一教育を行っている「防衛医
学」について教授がわかりやすく講義を行い、参加者は真剣な面
持ちで話を聞いていた。また個別相談会場では、参加者が在校生
に入試に向けての対策や学生生活、日々の教育訓練について直接
質問し、不安を解消していた。

参加者からは「医学を通じて国を守る自衛官になるために、こ
こで学べるように頑張りたい」「敷地の広さや施設がこんなに充実
しているとは思わなかった」などの感想が聞かれた。

静岡地本は、引き続き実際に各学校にふれる機会を有効に活用
し、防大や防衛医大の魅力を多くの若者に伝え、優秀な人材を確
保できるよう努めていく。

航空自衛隊の仕事を体験。公務員専門学生



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、7月19
日（木）と20日（金）の2日間、大原公務員専門学校静岡校の航空自
衛隊浜松基地（浜松市）職場研修を支援した。

これは、自衛隊の任務ややりがいについて理解を深める同校の教養演
習の一環として行われたもので、公務員科学生や大石健二校長、教員等
78人が、同基地での仕事を見学・体験した。

まず、基地に所属するUH-60J救難ヘリコプターやU-125A
救難捜索機を前に、パイロットから東日本大震災や関東・東北豪雨、7
月の西日本豪雨等における災害派遣での活動状況と機体の説明を受けた。
説明を受けた。

その後、F-15、F-2各戦闘機を格納庫内で見学。参加者は戦闘機
の大きさに圧倒されていた。

午後は、飛行場での火災に使用する大型破壊機救難消防車を見学し、
運転席などに乗り込んで車体の大きさや座席位置の高さに驚いていた。

最後に基地史料館の屋上で、基地の左右に伸びる滑走路からT-4中
等練習機が上空に向け飛び立っていく姿を見て、音の大きさや速度に歓
声を上げていた。

研修後、学生からは「航空自衛隊に消防の仕事があることを初めて知
った。消防士を目指しているが、国を守る自衛隊の消防にも魅力を感じ
た」との感想を聞くことができ、自衛隊の仕事について理解を深めてい
る様子であった。

静岡地本は、今後もこのような自衛隊を感じることが出来る機会を積
極的に設け、自衛官という仕事の魅力をより深く知ってもらうとともに、
熱意ある志願者の確保に努めていく。